



支えられて焼き鳥店三十年

新潟市西蒲区巻 内藤幾雄さん(76歳)

地元の飲んべえ憩いの店「鳥ふじ」も、コロナ禍による営業自粛で経営が厳しい。店主の内藤さんの気さくな人柄から、毎夜仕事帰りに立ち寄る常連客で賑わっていた。それが平均で2、3人となり、ゼロという日まである。おじさん達が1日の疲れを癒していた社交場も、今はまるで火が消えたかのようなようだ。

それでも「店は自宅で家賃もいらぬし、鶏の半羽から揚げ」と、焼き鳥のテイクアウトがあるから何とかなっている」と、優しい笑顔を見せる。開店当初からの「半羽から揚げ」は、クリスマスには3日間で500は売れるという町の名物でもある。

今はアルバイト女性と2人で切り盛りしているが、当初は妻のすみ枝さんと2人で始めた店だった。しかしすみ枝さんが開店7年目の平成8年、45歳の若さでガンのために先立ってしまった。幾雄さんと20歳、22歳の娘さん2人、年老いた両親が遺された。(院首記)(2ページに続く)

妙たえの光ひかり

復刊112号



行事案内



お墓参りと施餓鬼法要

地区別で 8月1日(土)、2日(日)、9日(日)、10日(月)

密集を避け、4日間に分散して行います。地区別での参拝にご協力ください。

※詳細は別紙「お盆参り変更のご案内」をご覧ください。



新盆法要

ご希望で 8月1日(土)、2日(日)、9日(日)、10日(月)

檀徒で新盆にあたる精霊のお位牌を本堂に安置し、ご供養します。

関係のご家庭には直接お知らせを入れましたので、ご確認の上どうぞご参列ください。

※檀徒以外の新盆供養もお受けします。ご希望の方はお問合せ下さい。

お盆棚経

8月初旬～16日

旧新潟市内と県内遠隔地は8月初旬から。近郊のお宅は従来の日程で伺います。関係のお宅にはご案内が入っています。日程ご確認の上、不都合な場合は早めに電話連絡をお願いします。

岩屋七面様祭礼

8月19日(水)

午前10時、本堂にて法要とお加持。岩屋に移動して法要。

お昼にお赤飯のご供養があります。ご自由にお参りください。



万灯のあかり—妙光寺の送り盆

(第31回フェスティバル安穩)

8月29日(土)

密集を避け、参列者無しで法要と灯籠供養を妙光寺関係者のみで行います。その様子はネット中継しますので、スマートフォンやパソコンからご覧いただけます。

※詳細は別紙パンフレットをご覧ください。

◆献灯のご案内

1基2千円

メッセージを添えてお申し込みください。



秋季彼岸会法要

9月22日(火・祝)

午前 10時30分 安穩廟法要

11時 本堂にて彼岸会中日法要

12時 おとし

午後 1時 住職法話

※予約不要ですが、新型コロナウイルス感染拡大状況により、内容を変更する場合があります。ご了承ください。

月例信行会、お寺でヨガ

7、8、9月はお休みします。

月例ボランティア

7、8、9月は定例のボランティアはお休みします。分散で都合の良い日に電話連絡の上、お手伝いにお越しください。

あとがき

お正月には想像もしなかった「新しい生活」が始まってしまいました。先日、戦争で難民となり故国に戻れない人たちのドキュメンタリーを観る機会がありました。「行きたい場所に行けず、会いたい人に会えない」人々の辛さが少しわかったような気がしています。ご縁の大切さをかみしめる夏にしたいものです。お寺は広く、「密」もありません。お参りにおいでください。

6月1日に臨時増刊号をお届けとお知らせしましたが、諸般の事情で出来ませんでした。せめて夏号を早めにお届けすることに致しました。(新倉理恵子)

当地是所、即是道場 小川良恵

お寺としても、お知らせした通り「ご判さま」の休止をはじめとした行事全般の見直し、法事のキャンセルや延期など様々に影響は出ております。このような状況ですので、仕方がないと考えてはおりますが、そんな中でも中止に出来ない

ビデオ通話でお葬儀

そもそも英語で寺院を意味する Temple の語源は、さかのぼるとギリシャ語の「切る」に相当し、元々は「祈りのために、他と隔絶された場所」を表わしていたようです。まさにステイするには相応しい場所といえるでしょう。

「ステイ・テンプル」の毎日です
新型コロナウィルス流行は、ほんの数ヶ月で私たちの生活を一変させました。私個人も4月以降、僧侶としての勤め以外は、近くのスーパーに出かけるほどの外出しかしておらず、すっかり引きこもりの日々が続いております。とはいえ、気候の良い時期ということもあり、お墓参りの方や、3密を避けて散歩がてらお参りにこられる方もいるので、完全に人と会話をしない状態にならないのは有り難いことです。「ステイ・ホーム」ならぬ「ステイ・テンプル」と言えば良いでしょうか。

のがお葬儀です。
「ご近所付き合いも多かった爺ちゃんだから、皆でお別れをして欲しかったが、人を呼べない」ということもありました。ことに「親の葬儀だけれど、関東在住なので、家族への影響を考えると参列できない」というご遺族のお話を伺ったときには、本当に歯痒い思いでした。「葬儀くらいは……」という気持ちも私自身にあるのですが、他県で通夜でのクラスター発生があったことを考えると、是非いらしてくださいと申し上げることも出来ない状況です。
そこで妙光寺でも、「ZOOM」のビデオ通話を使って、お葬儀の中継を行うことにしました。開式時間にあわせて、ご自宅からオンラインでお参りして頂けます。簡単に言えばテレビ電話越しに参列して頂く形です。先日のお葬儀では、オンライン参列をされた故人の息子さんが、式後に「棺の中を見せてください」とおっしゃられ、画面越しですが最期の対面を果たすことが出来ました。正直なところ式の中継のことばかりが頭にあったので、ご遺族の方のこの思いに私自身はつとさせられました。インターネットを介するという、冷たい印象もありますが、実際には決してそんなことはなく、暖かいお別れ

であつたと思います。
当地是所、即是道場
先に述べたように、英語の Temple は祈りのための場所を表わします。祈りの場所のことを仏教では「道場」とも言います。法華経神力品の中に「当知是処、即是道場」という文があります。読み下せば「まさに知るべしこのところは、即ちこれ道場なり」、意味は「あなたのいるこの場所・この瞬間こそが、どこでも道場なのです」となります。故人のために祈る気持ち、たとえ物理的に同じ場所にいらなくても届くのです。
縁が結ばれていることを忘れずに
道場はまた、仏教の修行をする場所のことでもあります。「即是道場」とは、あなたが生きている場所がそのまま、仏様の教えを学び実践して行くべき道場であるという教えです。人との縁、仏様との縁が結ばれていることを忘れず、日々を懸命に生きていくことこそが、大切な修行なのです。皆さんも「ステイ・ホーム」をしながらにして「ステイ・テンプル」をしていると考えると、自粛の日々も少し和らいだ気持ちで過ごせるのではないのでしょうか。

新潟市西蒲区巻 内藤幾雄さん(76歳)

妻と2人で始めた
焼き鳥店

幾雄さんは若い頃から肉料理の飲食店をやる夢があつて、高校卒業後上京して鶏肉加工会社に就職した。そこで1年間みっちり鶏肉をさばく技術を身につけ、さらに焼き鳥に加工する店や、飲食店に配達する営業職を4年、前橋の工場にも3年間勤務した。

やがて両親の仕事を手伝おうと、働いて貯めたお金でトラックを買い郷里に戻った。当時父親の喜作さんは鶏と豚の飼料をリヤカーに積み自転車で引いて農家に配達、加えて県の養鶏試験場で仕入れた卵を仕出し屋やお菓子屋に卸す仕事に従事していた。これをトラックで手伝ったのだった。

しかし飲食店の夢を諦めきれず、縁あつて新潟の老舗『鳥梅』で調理の修業をさせてもらった。その1年後に妻すみ枝さんも看護師を辞



めて2人で念願の店「鳥ふじ」を開いた。内藤さん39歳、すみ枝さん32歳の時だった。

信仰熱心な両親の支え

母親のシズさんは内藤家の養女で、父喜作さんは入り婿である。内藤家も二人の実家も皆親戚で内藤姓。三軒とも熱心な妙光寺檀徒。昔はこうした同じ檀徒で親戚同士の結婚がかなりあつた。



その上幾雄さんの祖父にあたる幾太郎さんが妙光寺の世話人を長年勤めた信心家で、両親はこの信仰心もしっかり受け継いだ。やはり世話人を勤めた父の喜作さんは、酒を好まず生真面目で一徹。一方で連れ合いのシズさんはバランスを取るように、冗談を言つて周囲を和ます機転の利く人だった。

母のシズさんは幾雄さんが焼き鳥店を始めると言い出したとき、遠縁に当たる酒屋に「飲食店なんて商売は倅に不向きでとても無理だから止めるよう説得してくれ」と頼みに行った。ところが「本人があれほど真剣なんだからやらせてやれ。むしろ応援すべきだろう」と言われたそうだ。以来、両親ともに何かと支えてくれた。

妻との別れ

店を始めて7年目に大事なパ

トナーのすみ枝さんを失った。とても悲しかったが、家族と一緒にだったからやつてこられたという。
しかし母のシズさんはすっかり落ち込み、朝晩欠かさなかったお仏壇参りもせず寝込んでしまった。「一生懸命お参りしてきたのに、なんで年寄りが遺されて大事な若い嫁が逝ってしまうんだ。」「婆ちゃん、辛いだろうけど仕方ないことだよ。でもこれだけ信心してきたから必ず乗り越えて元気になれるよ。」当時現院首とのそんな会話が あつた。やがて回復してユーモア婆ちゃんは復活した。

(院首記、写真・石田博道)

◆境内整備作業

行事の休止で手が空いた分、日頃できない境内の整備に僧侶が汗を流しています。



◀日蓮聖人と八幡大菩薩が、大岩に共に書かれたと伝わるお題目を祀る『題目堂』。内部が大きな井戸で、水の枯れることはありません。

▲ポンプによる水替えと底さらいをしました。

▶高圧洗浄機で岩の汚れを落としたり、刻まれたお題目の文字が現れました。



雨の日は参道が滑りやすいので、張り付いた苔を洗い流しました



山林の作業前。藪に覆われています。



作業後。見通しよくすっきりした林に日差しが差し込み、残した杉が元気になります。

◆山林整備

境内に隣接する山林を整備しました。



足を踏み入れることすら困難でした。



▲まずは竹藪の刈り払いから。
▶宮沢の上流は風倒木で水路が塞がる寸前です。夏前に県庁治山課が除去します。



切り倒した杉は重機で搬出、燃料にしかないそうです。

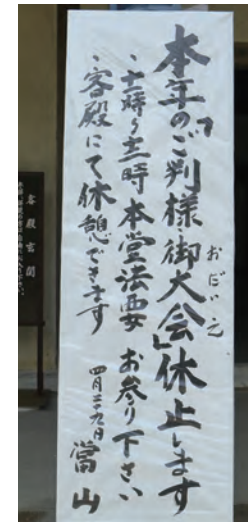


寺のうごき春



◆休止の「ご判さま」祭礼

欠かせない法要を、住職以下在勤の式衆で行いました。



▲例年の幟旗だけでもと、連休中立てました。

◀法要は10人の方が参列、間隔を開けてお参りいただきました。

◆『安穏廟・池の上』増設工事

8基64区画を増設。併せて『杜の安穏』とともに枯れたサツキの植え替えをしました。



持参した椅子に座ってお参りの方と、サツキの植え替え作業中の院首とで話がはずみました。



沈下対策で基礎を一体化しました。現在一部で見られる沈下には、順次対応していきます。

―鼓童・山口幹文さんに聞く―

伝統と創造をつないで未来へ

佐渡を拠点に世界で活躍する「太鼓芸能集団・鼓童」は、妙光寺ではおなじみの存在です。

節目の行事には必ず登場し、妙光寺を支えてくださいます。

何故、いつから鼓童は妙光寺で演奏するようになったのでしょうか。

今夏の「送り盆」でも篠笛演奏をしてくださる山口幹文さんに、お話をうかがいました。



山口幹文さん (65歳)
茨城県出身。「鼓童」創設メンバーの1人。日本を代表する真笛・篠笛奏者である。鼓童名誉団員。
太鼓芸能集団・鼓童
新潟県佐渡市小木に拠点を置いて活動する和太鼓集団。1981年の旗揚げ以来、世界52カ国で6,500回以上の公演を重ねており、国内はもとより海外でも高く評価されている。

Q まず、ご自身について聞かせてください。どちらのご出身ですか？

山口 茨城県で生まれて、東京で育ちました。でも若いころ——一九七〇年代の終わりですが、東京で暮らすのが嫌になって佐渡にいた鼓童の前身のグループと知り合い、佐渡で暮らすようになったんです。ただし舞台に立つ気持ちはなかったもので、当時は自給自足のヒッピーみたいなことを皆でしていましたから、私は畑を耕したりしていたんですね。そうしたら一九八一年に鼓童を始めることになり、笛吹きがいなかったからやれ、ということになりました。私はもともとフルートをやっていたので、それではということで篠笛を吹くことになったのが始まりです。それ以来、笛だけでなく三味線、琴、胡弓などいろいろ演奏しました。

Q 40年の間に苦勞されたことは何ですか？

山口 若い頃は貧乏でしたが、それは苦になりませんでした。一時は太鼓を聞きに来るお客様の前で笛を吹く自分はどうなんだろう、と悩んだこともありましたが、でも一番苦勞したのは、代表や演出という皆をまとめる仕事をするようになってからです。人間関係を維持することが大変でした。数十人が四六時中一緒にいるわけですし、団員はみんな芸能人なので基本的にはわがままなんです。ただわがままさも必要なことですから、上手く調整していくのは大変でした。

Q 世界各国で演奏してられましたが、国による違いはありますか？

山口 今回の国でも地域でも受け入れ方は同じです。太鼓は根源的なもので、体感として通じるようです。でも反応は違います。ものすごくぎやかに大騒ぎする地域もありますし、静かにしみじみという地域もあります。ただ全く通じないという経験は、ほとんどありません。

Q 鼓童の団員は、今何人いるのですか？

山口 創設時のメンバーは13人でした。その頃は全員で貧乏共同生活です。コミュニケーションのような新しい生き方を模索する面もありました。現在は舞台にあがるメンバーが30人余、裏方のスタッフや営業や経理で百三十人くらいになりました。正式メンバー

の生活は自由です。寮もありますが、皆アパートを借りたり家を建てたりしています。ただ研修生は別で、2年間の研修生活の間は共同生活をするようになっていきます。毎年10名ずつ採用しますので常に20名の研修生がいて、彼らは携帯電話も禁止で朝の走り込みから全員で過ごし、太鼓漬けの毎日です。

Q 研修生から団員になっていくんですね

山口 そうです。研修生は基本的な審査があるだけで、一時より倍率も低くなりました。ただ研修生から正式メンバーになれるのは、毎年10名中2〜3名です。その意味では演奏のレベルは高くなっています。

Q では、鼓童と妙光寺のそもそもの縁を聞かせてください。

山口 それがありよく覚えていないんです。(笑) たぶん、妙光寺でよく個展をなさっている陶芸家の中野亘さんと、鼓童の*小島千絵子が知り合いだったことがきっかけです。小島から「新潟におもしろいお寺がある。いろいろなイベントをやっているみたい」と聞きまして、一番初めは三重塔修復落成式(二〇〇三年)の演奏だったと思います。以来、小グループでの演奏を度々させていただいて、私も出演だけでなく演出担当として幾度もうかがうことになりました。

Q 妙光寺の魅力はなんですか？

山口 一つは小川さん——今は院首さまというんですか——の人柄です。合理的で



ビジネスライクなところもあり、一方でクリエイティブな発想もある。厳しい面もありつつ、突き詰める愛がある方です。もう一つは寺としての考え方です。伝統を継承しながら、改革できることは改革して創造していく。「現代に生きる寺」という方向性は、私たち鼓童と同じだと思うのです。私たちが伝統的な楽器を使いながら、新しいことを創造しなくちゃいけない。伝統と創造をつないでいくという妙光寺の

あり方は、鼓童と近いと思いますね。

Q 幾度も演奏していただいています。が、一番印象に残っているのは？

山口 なんとと言っても妙光寺開創七〇〇年身延山久遠寺大法要(二〇三年)です。久遠寺本堂で奉納演奏を行ったわけですが、あれは妙光寺と鼓童の縁のひとつの集大成といえるものでした。内陣から見ると光景は体験したことがないので、非常に高揚感があつてエキサイティングでしたね。

Q 鼓童の演奏や舞踊が、法要と一体になっていました。

山口 これまでやってこられた小川さん(院首)の発想の中に、「寺は総合芸術である」という思いがあります。仏教の儀式の中に音楽を入れていくというプロデュースを考えておられると思います。日本の寺院は美術的には完成度が高いけれど、声明や太鼓などを除けば音楽の要素はやや乏しいように思います。五感に訴えるという点で、音楽は重要です。太鼓も娯楽としての歴史が長いけれど、そもそもは宗教的なものから。

Q 昨年の送り盆の翌日、お手伝いのお坊さんたちが「鼓童とのコラボレーションはとても良かった。また一緒にやってみたい」と話していました。読経と太鼓が引き合うような緊張感は普段でできない経験だったそうです。

山口 仏教の法要は、伝統的なフォーマット(形式)がきっちりあります。ですからそこに入っていくのは一つの冒険で、やは



Q 新型コロナウイルス流行で 葬儀の形が変わっていると聞きます。 どんな心構えを持てばいいでしょうか？

「最期にお骨を拾うことも出来なかった」という志村けんさんの遺族のインタビューは、ショッキングなニュースでした。新潟県内では、コロナによる死者は出ていませんが、病院での面会制限、葬儀社のホールや火葬場での飲食は禁止、火葬後のお骨上げも4人以下という制限がされています(5月現在)。県内の自粛要請は解除されたとはいえ、思うように故人を送れない不安は多々あるかと存じます。

妙光寺でも4月以降は、あらゆる式場でご家族のみでのお葬儀がほとんどですが、式自体は3密を避ける工夫をして通常通り行っています。お斎も持ち帰りのお弁当で対応できます。また、関東在住などで来県が難しい方のためには、LINEのビデオ通話を用いたリモートでの参列も可能です。(p3参照)「葬式の中継なんて……」という声も一部にはありますが、最期のお別れがどのような形であれきちんと出来るのは大切なことだと考えております。

また万が一、コロナが原因でお亡くなりになった場合には、先に火葬をしてからご遺骨で葬儀を行うことも出来ます。骨葬儀は決して特別なものではなく、県内新潟田市以北等では火葬を先に行うことが従来から一般的に行われています。

未曾有の事態にある今だからこそ、落ち着いた気持ちでご家族を見送れるよう、私達も対策を考え、務めてまいります。ご心配なことは、気兼ねなくご相談ください。

法華經 『授学無学人記品 第九』 二乗作仏

章題の「無学」とは現代語では「学の無いこと」を意味しますが、
仏教においては正反対で、「もう学ぶべきものがない境地」を表しています。

あなん ら ころ

阿難と羅睺羅の授記

この章では、前章に引き続き弟子たちへの授記(遠い将来、修行が完成したら如来になるという予言を授けること)が説かれます。お釈迦様の十大弟子である阿難と羅睺羅をはじめとする、2000人の弟子たちの成仏が予言されています。

中でも阿難はお釈迦様の従兄弟にあたり、お釈迦様が亡くなるまで常に侍者として傍にお仕えしていた弟子でした。また、羅睺羅はお釈迦様の実の子供です。弟子となつてからは、良くも悪くも特別視されることもあったと推測されますが、ひたむきに戒律を守り、緻密に修行をしたため、密行第一と称されるようになりました。そのような2人ですが、十大弟子の中では遅い授記でした。ここには、身内とはいえ最良をしないお釈迦様の姿が

表れているといえるでしょう。

しょうもん えんがく

声聞・縁覚も仏に成れる

この章までで、様々な手法で数多くの弟子たちの成仏が予言されてきました。阿難や羅睺羅とともに授記された2000人は、声聞・縁覚といわれる弟子たちです。法華経以前の経典では、声聞・縁覚の「二乗」は自分の悟りだけを目標としているので成仏できないとされていた修行者たちでした。しかし法華経は、この中にもすぐれた者がいるとしています。方便品第二から続く法華経の「二乗作仏」、すなわち声聞・縁覚も仏に成る可能性があるという教えの開示は、この章をもって説きあらわされました。

法華経の区分としては、ここまでで「迹門」(前半部)の「正宗分」(主要な教義の説かれた本論の部分)が終了したとされています。

『お釈迦様立像』

妙光寺の新しいお宝です。
本堂のご本尊はお釈迦様の座像ですが、こちらは立像です。

檀徒の家族葬を離れの「京住院」でお受けしています。ただ2件同時になった場合はどうするかを、案じていました。そこで客殿の和室を椅子席にして、家族葬もできるように改修し「講堂」としました。こ

こでの法要の際、安置する仏様です。

仏身(身長)は27cm、全体(台座の下から后背の先まで)は52cmあります。右手は「安心して良いですよ」と

いう意味の施無畏印、左手は「人々の願いを叶え望みを与える」与願印の形をしています。

新潟市の高杉ハルさんが、講堂改修工事とこの仏像を奉納され、講

堂はご覧いただけました。しかし仏像は完成まで思わぬ時間がかかり、高杉さんは他界されてしまったのです。後日仏像をお迎えして、親族の皆様喜んでいただきました。



立像正面



新装なった講堂で、行事後のお齋も行います。

角田山妙光寺インフォメーション

新型コロナウイルス流行にともなつて

法事と葬儀

法事を延期される方もおられますが、法事・葬儀ともに3密を避けて本堂で行っています。遠隔地で参列できない方には、スマートフォンを使って中継したり、後日写真をお送りしたりしています。ご相談ください。

夏の諸行事

別紙ご案内のとおり、例年と大幅に違う、変則的な形で行います。ご不明な点はお問い合わせください。

信行会とボランティア

信行会は秋からの再開を検討中です。次号にてお知らせします。

ボランティアは夏に向けた準備作業のため、日時を決めずにご都合の良いときに灯籠作り等をお願いします。事前にお電話のうえお越しいただければ助かります。

役員総会休止

例年6月に開催して経理を含めた運営状況を審議している役員総会を、休止

しました。総代と会計監査で審議の上、文書で全役員にご報告しました。

境内に隣接した山林を整備

本堂に向かって左手の山林九五〇坪を購入して、整備しました。50年以上前に植林された杉林ですが、ある時期から手入れが放棄されて密植状態のうえ、竹が密生して足を踏み入れることも困難でした。こうしたことで山が荒廃し、土砂崩落の危険性が指摘されています。

かねてより地権者から「高齢で管理できないので購入して欲しい」との申し出があり、検討してきました。しかし繁茂した杉と竹の伐採経費は多額になります。幸い森林組合より、予想外に安い金額で伐採の請負が可能と言われ、今春土地の購入と伐採を行いました。さらにこれを機に、中を流れる宮沢水路の管理を県の予算で行うことが決まりました。

今後の利活用は未定ですが、まずは土砂災害対策の一助となり、山林の再生に繋がりました。今後は湿気があるので、苔

が生えて一面緑の絨毯になるかもしれません。林内にアジサイを植えてはどうかとの意見があります。確かに緩い斜面なので花が咲いたら見事だと思えます。またリスの生息も確認され野鳥のさえずりも多いので、実のなる落葉樹を植えてはとの提案もあります。管理費を押さえつつ景観上良い策を検討してまいります。

(5ページに写真を掲載)

増設安穏廟完成

「池の上安穏廟」の増設工事が完了しました。64区画中6月1日現在27件の予約申込みがあります。

古墳調査の動向

新潟大学名誉教授橋本先生を中心にした測量が終盤です。先般NHK県内ニュースでも報道された地中探査の解析結果にも、さらに新たな発見が期待されています。次号で橋本先生のインタビューを予定しています。



古墳上部に露出する大石の下に埋葬跡の空洞か？

年会費他のお願い

例年通り年会費とお盆の塔婆供養、送り盆の灯籠供養のご案内を別紙同封しました。この折りに浄土基金のご寄付をくださる方が増えています。今後の山林整備にも経費がかかります。ご協力いただければ幸いです。宜しくお願いします。